

令和4年（2022年）度胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）の状況について

令和5年（2023年）8月
北海道胆振総合振興局

【概要】

令和4年（2022年）度の訪日外国人宿泊客数（延べ数）は189,902人泊で、前年度（2,800人泊）と比較して187,102人泊の増加（前年度比6,782.2%）となりました。令和4年（2022年）6月に約2年ぶりに観光ビザの取得や添乗員付きのツアー客のみなどの出入国制限付きでの外国人観光客の受け入れ再開や10月の個人客の受け入れ再開などが増加の要因となりましたが、コロナ禍以前の令和元年（2019年）度（820,057人泊）との比較では630,155人泊の減少（令和元年(2019年)度比23.2%）となっています。

【国・地域別の状況】【資料1】

訪日外国人宿泊客数（延べ数）を国・地域別に見ると、韓国が77,622人泊で最も多く全体の40.9%を占めており、次いで台湾（41,896人泊）、香港（19,101人泊）、シンガポール（9,932人泊）、タイ（7,628人泊）となっています。

韓国人の宿泊客数増加については、新千歳空港との国際線定期便数の増加が影響し、コロナ禍前の令和元年（2019年）度（95,712人泊）との比較でも81.1%と他と比べて回復傾向が見られます。一方、令和元年（2019年）度時点で最も多くの割合を占めていた中国人の宿泊客数は、令和4年（2022年）度では5,402人泊となっていますが、中国政府による団体旅行の禁止等が影響し、令和元年（2019年）度（238,820人泊）との比較では2.2%となっています。

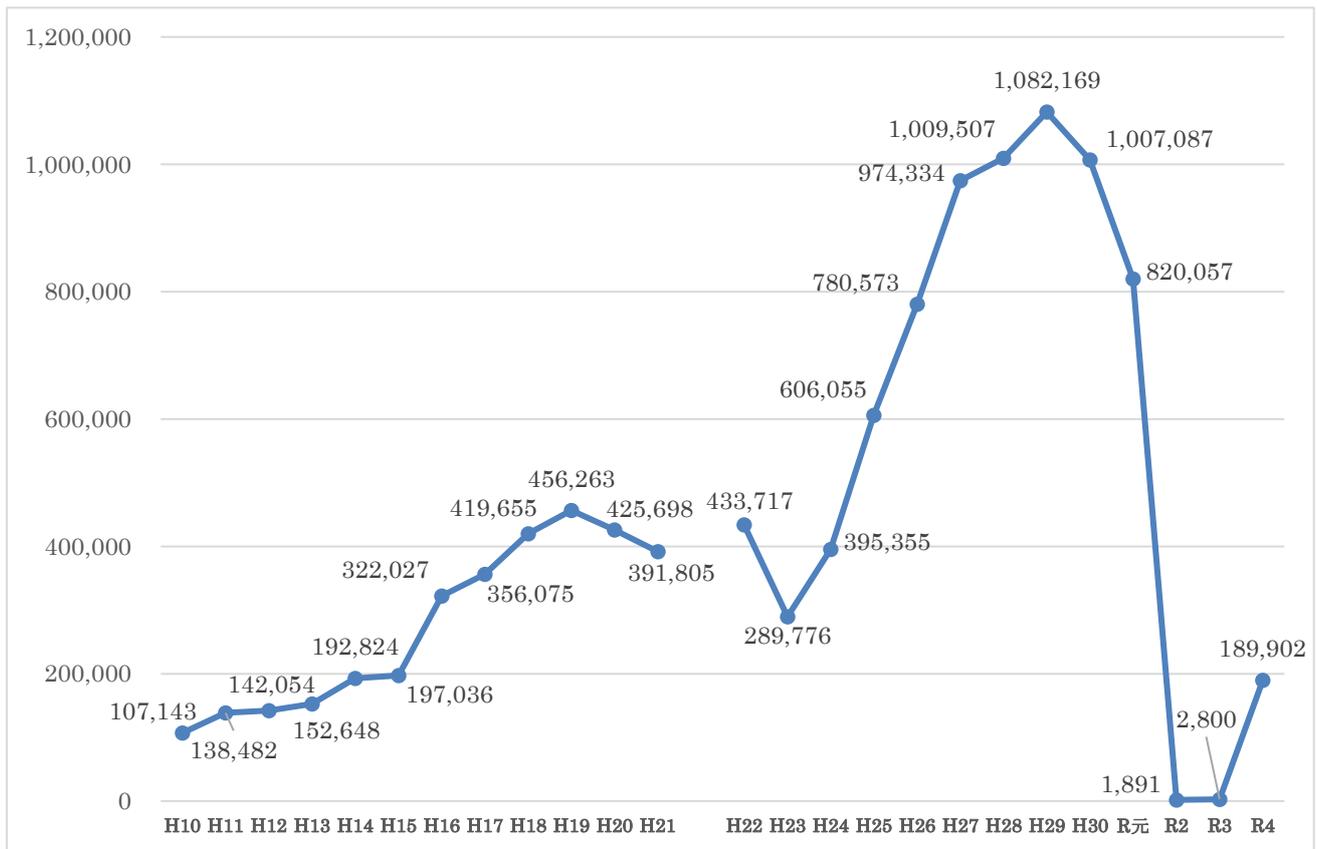
なお、参考として、平成10年（1998年）度からの訪日外国人宿泊客数（延べ数）の推移【参考資料1】と令和元年（2019年）度まで宿泊客数（延べ数）の多かった主な国・地域の宿泊客数（延べ数）の推移【参考資料2】、令和4年（2022年）度の胆振管内宿泊客数（延べ数）月別の推移（主な国・地域別）（令和4年（2022年）度）【参考資料3-1】、（令和元年（2019年）度）【参考資料3-2】を掲載しています。

【資料1】令和4年（2022年）度胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）内訳（単位：人泊）

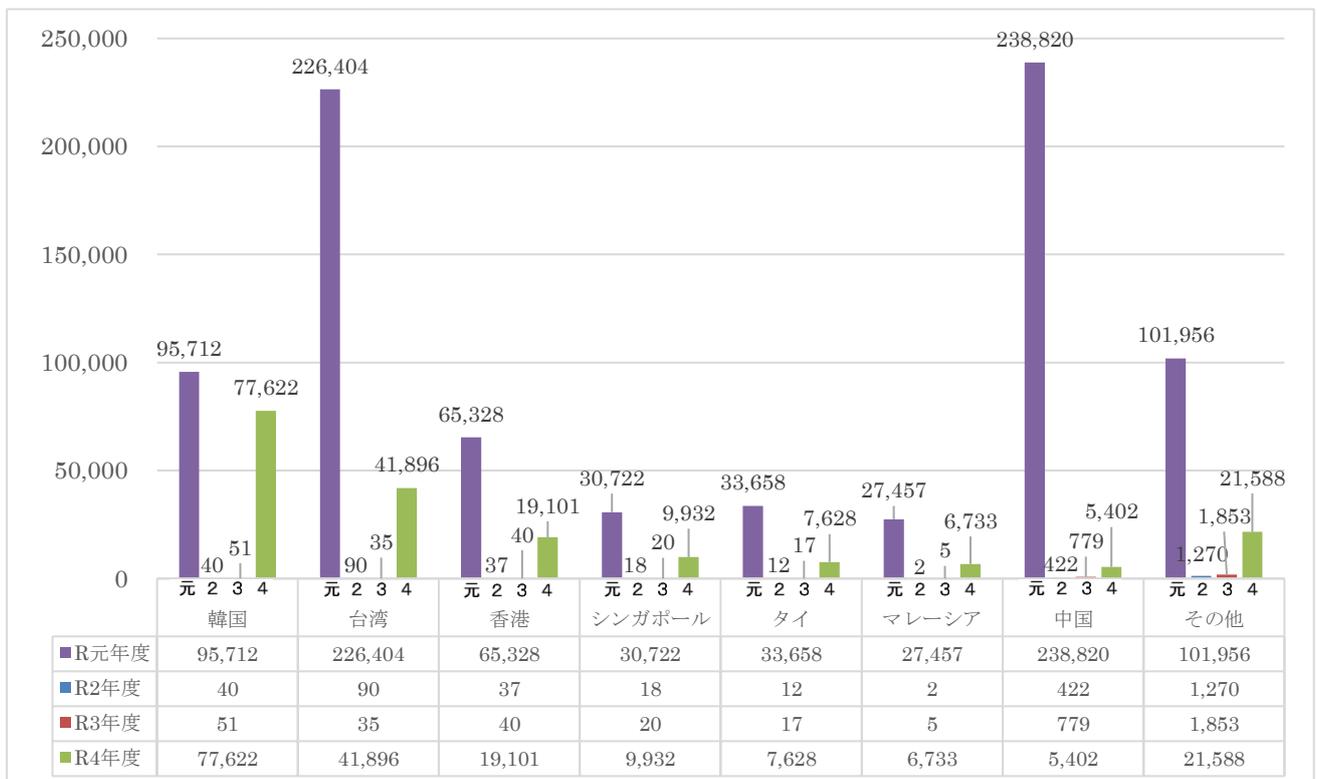
順位	国・地域	令和4年 (2022年)度 宿泊客数(延べ数)		前年度比	前年度からの 増減数	令和元年 (2019年)度 宿泊客数 (延べ数)	令和元年 (2019年)度比
			構成比				
1	韓国	77,622	40.9%	152,200.0%	77,571	95,712	81.1%
2	台湾	41,896	22.1%	119,702.9%	41,861	226,404	18.5%
3	香港	19,101	10.1%	47,752.5%	19,061	65,328	29.2%
4	シンガポール	9,932	5.2%	49,660.0%	9,912	30,722	32.3%
5	タイ	7,628	4.0%	44,870.6%	7,611	33,658	22.7%
6	マレーシア	6,733	3.5%	134,660.0%	6,728	27,457	24.5%
7	中国	5,402	2.8%	693.5%	4,623	238,820	2.2%
	その他	21,588	11.4%	1,165.0%	19,735	101,956	21.2%
	合計	189,902	100.0%	6,782.2%	187,102	820,057	23.2%

【参考資料1】胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人泊）



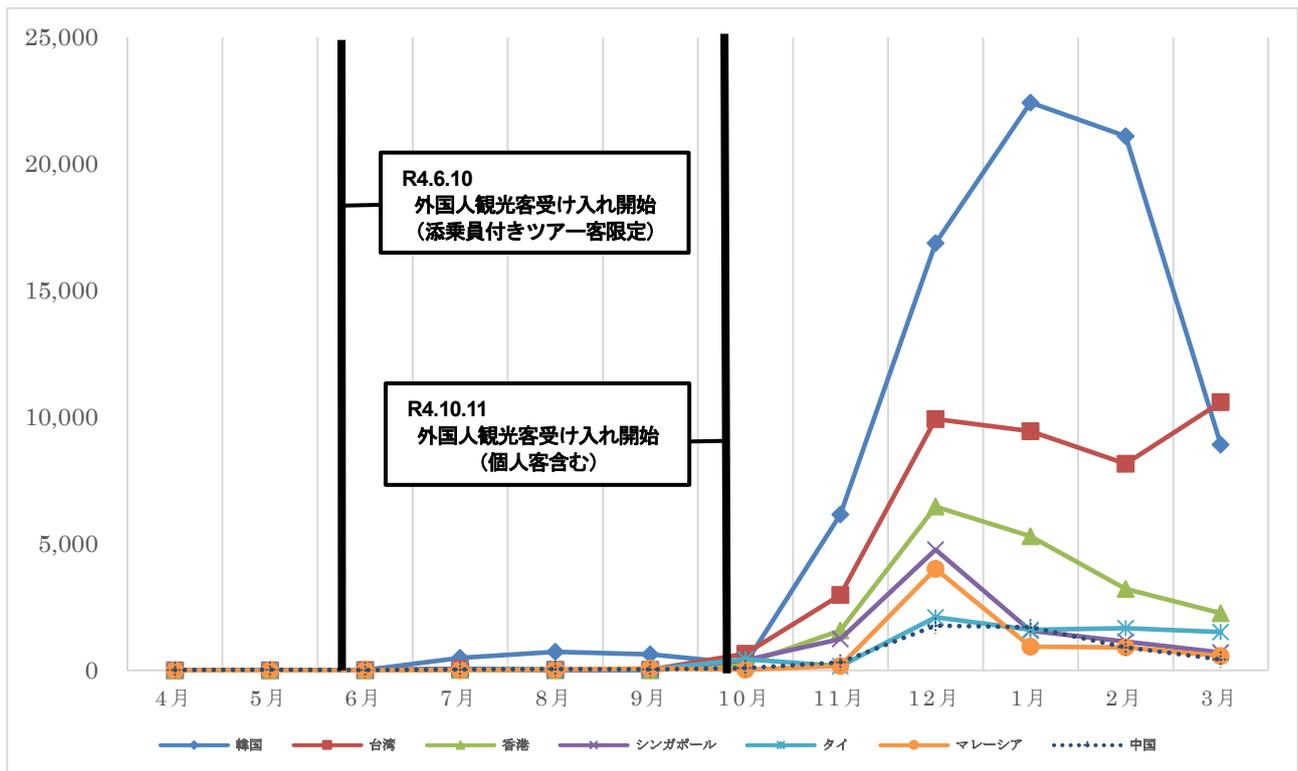
【参考資料2】胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）の推移（主な国・地域別）（単位：人泊）



※R2年度とR3年度については、数が少ないため、グラフでの確認が難しくなっております。

【参考資料3-1】令和4年（2022年）度胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）

月別の推移（主な国・地域別）（単位：人泊）



【参考資料3-2】令和元年（2019年）度胆振管内訪日外国人宿泊客数（延べ数）

月別の推移（主な国・地域別）（単位：人泊）

